

佐賀大学農学部 学位授与の方針

教育目標に照らして、学生が身につけるべき以下の具体的学習成果の達成を学位授与の方針とする。また、学則に定める所定の単位を修得した者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与する。

応用生物科学科

1. 基礎的な知識と技能

- (1) 文化と自然などに関する授業科目を有機的に関連付けて履修・修得し、文化的素養を身に付けている。
- (2) 健全な社会や健康な生活に関する種々の授業科目を履修・修得し、生活の質の向上に役立てることができる。
- (3) 言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、日本語と英語を用いたコミュニケーション・スキルを身に付け、情報通信技術（ICT）などを用いて、多様な情報を収集・分析し、科学的合理性や科学的論理に基づいて判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- (4) 農学分野の基礎的な知識・技術を体系的に修得し、農学に関わる業務を遂行する職業人としての必要な実践能力を有する。

2. 課題発見・解決能力

- (1) 実践演習型学習や問題解決型学習を通して現代的な諸問題に関心・理解を持ち、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、科学的・論理的な思考に基づいて、その問題の解決に取り組むことができる。
- (2) 農学における専門分野についての深い学識を持ち、専門分野における課題解決に向けての基本的研究技能と研究マインドを身に付けている。
- (3) 演習や卒業研究などを通して人間理解に立った良い人間関係の形成、研究チームの一員としての協調・協働した行動、リーダーシップを発揮する率先した行動、後輩等に対する指導力などを身に付け、実践できる。

3. 個人と社会の持続的発展を支える力

- (1) 文化や伝統などの違いを踏まえて、平和な社会実現のために他者の立場で物事を考え、自然環境や社会的弱者に配慮することができる。
- (2) 問題解決型学習などを通して自己学習の習慣を身に付け、自己の生き方を考察し、主体的に社会的役割を選択・決定し、生涯学習を行う意欲と態度を有する。
- (3) 4年間の教育課程を通して高い倫理観と豊かな人間性を育み、社会生活で守るべき規範を順守し、自己の能力を社会の健全な発展に寄与しうる姿勢を身に付けている。

生物環境科学科

1. 基礎的な知識と技能

- (1) 文化と自然などに関する授業科目を有機的に関連付けて履修・修得し、文化的素養を身に付けている。
- (2) 健全な社会や健康な生活に関する種々の授業科目を履修・修得し、生活の質の向上に役立てることができる。

- (3) 言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、日本語と英語を用いたコミュニケーション・スキルを身に付け、情報通信技術（ICT）などを用いて、多様な情報を収集・分析し、科学的合理性や科学的論理に基づいて判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- (4) 農学分野の基礎的な知識・技術を体系的に修得し、農学に関わる業務を遂行する職業人としての必要な実践能力を有する。

2. 課題発見・解決能力

- (1) 実践演習型学習や問題解決型学習を通して現代的な諸問題に関心・理解を持ち、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、科学的・論理的な思考に基づいて、その問題の解決に取り組むことができる。
- (2) 農学における専門分野についての深い学識を持ち、専門分野における課題解決に向けての基本的研究技能と研究マインドを身に付けている。
- (3) 演習や卒業研究などを通して人間理解に立った良い人間関係の形成、研究チームの一員としての協調・協働した行動、リーダーシップを発揮する率先した行動、後輩等に対する指導力などを身に付け、実践できる。

3. 個人と社会の持続的発展を支える力

- (1) 文化や伝統などの違いを踏まえて、平和な社会実現のために他者の立場で物事を考え、自然環境や社会的弱者に配慮することができる。
- (2) 問題解決型学習などを通して自己学習の習慣を身に付け、自己の生き方を考察し、主体的に社会的役割を選択・決定し、生涯学習を行う意欲と態度を有する。
- (3) 4年間の教育課程を通して高い倫理観と豊かな人間性を育み、社会生活で守るべき規範を順守し、自己の能力を社会の健全な発展に寄与しうる姿勢を身に付けている。

生命機能科学科

1. 基礎的な知識と技能

- (1) 文化と自然などに関する授業科目を有機的に関連付けて履修・修得し、文化的素養を身に付けている。
- (2) 健全な社会や健康な生活に関する種々の授業科目を履修・修得し、生活の質の向上に役立てることができる。
- (3) 言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、日本語と英語を用いたコミュニケーション・スキルを身に付け、情報通信技術（ICT）などを用いて、多様な情報を収集・分析し、科学的合理性や科学的論理に基づいて判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- (4) 農学分野の基礎的な知識・技術を体系的に修得し、農学に関わる業務を遂行する職業人としての必要な実践能力を有する。

2. 課題発見・解決能力

- (1) 実践演習型学習や問題解決型学習を通して現代的な諸問題に関心・理解を持ち、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、科学的・論理的な思考に基づいて、その問題の解決に取り組むことができる。
- (2) 農学における専門分野についての深い学識を持ち、専門分野における課題解決に向けての基本的研究技能と研究マインドを身に付けている。

- (3) 演習や卒業研究などを通して人間理解に立った良い人間関係の形成，研究チームの一員としての協調・協働した行動，リーダーシップを発揮する率先した行動，後輩等に対する指導力などを身に付け，実践できる。

3. 個人と社会の持続的発展を支える力

- (1) 文化や伝統などの違いを踏まえて，平和な社会実現のために他者の立場で物事を考え，自然環境や社会的弱者に配慮することができる。
- (2) 問題解決型学習などを通して自己学習の習慣を身に付け，自己の生き方を考察し，主体的に社会的役割を選択・決定し，生涯学習を行う意欲と態度を有する。
- (3) 4年間の教育課程を通して高い倫理観と豊かな人間性を育み，社会生活で守るべき規範を順守し，自己の能力を社会の健全な発展に寄与しうる姿勢を身に付けている。

佐賀大学農学部 教育課程編成・実施の方針

1. 教育課程の編成

学位授与の方針を具現化するために、以下の方針の下に教育課程を編成し、教育を実施する。

応用生物科学科

効果的な学習成果をあげるために、教養教育科目と専門教育科目を有機的かつ体系的に配置した4年間の教育課程を編成する。

(1) 基礎的な知識と技能

教養教育において、文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目（基本教養科目、健康・スポーツ科目）、言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目（外国語科目、情報リテラシー科目、大学入門科目、基本教養科目）を、必修および選択必修として幅広く履修できるように配置する。

教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育科目は初年時から開講し、基礎的な汎用技能を修得した上で、農学分野での専門課程における応用・発展的な学習に繋げる。

専門教育科目においても言語・情報・科学リテラシーに関して、農学分野での応用、発展が可能な知識と専門技術の修得を図る。

(2) 課題発見・解決能力

教養教育において、さまざまな課題を探求し、少人数クラスでの検討を通じて解決の道を探るための授業科目を、初年次の必修として配置する（大学入門科目）。また、現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけさせるための科目を、選択として配置する（インターフェース科目）。

農学分野の基礎的な知識・技術を体系的に身に付けるために専門基礎科目（生物学、化学など）と農学基礎科目（作物生産学、動物資源開発学、生物化学、土壌学、食料流通経済学）を1-2年次に配置する。

農学分野における課題発見と解決能力の修得のために、情報収集・分析力、研究技能と研究マインド、リーダーシップを発揮する指導力などの養成に関する学部専門科目、実験・演習科目及び卒業研究を配置する。

(3) 個人と社会の持続的発展を支える力

応用生物科学に関する専門的な知識、技術を修得し、農学に関わる業務を遂行する職業人としての実践能力を養うために、専門科目（必修及び選択）と実験科目を1年次後学期から4年次まで体系的に配置する。

教養教育において、他者を理解し共生する力や高い倫理観・社会的責任感に関する授業科目を選択必修として幅広く履修できるように配慮する（インターフェース科目）。

社会との関わりを理解し、持続的な自己実現を図るための能力、習慣を身に付けるために、学部専門科目として、問題解決型学習方式で実施する演習やインターンシップを配置する。

各研究室への配属は3年次前学期に行われ、卒業研究修了まで専門的な研究環境を長期間経験することにより、学士（農学）として十分な専門知識と先端技術を修得するとともに、研究チームの一員としての協調性、高い倫理観と豊かな人間性を養う専門科目（各研究分野実験、卒業研究など）を配置する。

（別紙）応用生物科学科における教育目標を達成するための授業科目の流れ（カリキュラムマップ）

生物環境科学科

効果的な学習成果をあげるために、教養教育科目と専門教育科目を有機的かつ体系的に配置した4年間の教育課程を編成する。

(1) 基礎的な知識と技能

教養教育において、文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目（基本教養科目、健康・スポーツ科目）、言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目（外国語科目、情報リテラシー科目、基本教養科目）を、必修および選択必修として幅広く履修できるように配置する。

教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育科目は初年次から開講し、基礎的な汎用技能を修得した上で、農学分野での専門課程における応用・発展的な学習に繋げる。

専門教育科目においても言語・情報・科学リテラシーに関して、農学分野での応用、発展が可能な知識と専門技術の修得を図る。

(2) 課題発見・解決能力

教養教育において、さまざまな課題を探求し、少人数クラスでの検討を通じて解決の道を探るための授業科目を、初年次の必修として配置する（大学入門科目）。また、現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけさせるための科目を、選択として配置する（インターフェース科目）。

農学分野の基礎的な知識・技術を体系的に身に付けるために専門基礎科目（基礎数学、物理学、生物学、化学）と農学基礎科目（作物生産学、動物資源開発学、生物化学、土壌学、食料流通経済学）を1-2年次に配置する。

農学分野における課題発見と解決能力の修得のために、情報収集・分析力、研究技能と研究マインド、リーダーシップを発揮する指導力などの養成に関する講義科目、実験・演習科目及び卒業研究を専門科目として配置する。

(3) 個人と社会の持続的発展を支える力

教養教育において、他者を理解し共生する力や高い倫理観・社会的責任感に関する授業科目を選択必修として幅広く履修できるように配慮する（インターフェース科目）。

生物環境科学に関する専門的な知識、技術を修得し、農学に関わる業務を遂行する職業人としての実践能力を養うために、専門科目（必修および選択）と実験科目、演習科目を1年次後学期から4年次まで体系的に配置する。

社会との関わりを理解し、持続的な自己実現を図るための能力、習慣を身に付けるために、専門科目として問題解決型学習方式で実施する演習やインターンシップを配置する。

各コースへの配置は2年次前学期に行われ、さらに2年次後学期（資源循環生産学コース）あるいは3年次前学期（生物環境保全学コース、地域社会開発学コース）には、コース内において、各教育研究分野への配属が行われ、卒業研究修了まで専門的な研究環境を長期間経験することにより、学士（農学）として十分な専門知識と先端技術を修得するとともに、研究チームの一員としての協調性、高い倫理観と豊かな人間性を養う専門科目（各教育研究分野実験・演習、卒業研究など）を配置する。

（別紙）生物環境科学科生物環境保全学コースにおける教育目標を達成するための授業科目の流れ（カリキュラムマップ）

(別紙) 生物環境科学科資源循環生産学コースにおける教育目標を達成するための授業科目の流れ (カリキュラムマップ)

(別紙) 生物環境科学科地域社会開発学コースにおける教育目標を達成するための授業科目の流れ (カリキュラムマップ)

生命機能科学科

効果的な学習成果をあげるために、教養教育科目と専門教育科目を有機的かつ体系的に配置した4年間の教育課程を編成する。

(1) 基礎的な知識と技能

教養教育において、文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目 (基本教養科目, インターフェース科目, 健康・スポーツ科目), 言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目 (外国語科目, 情報処理科目) を、必修および選択必修として幅広く履修できるように配置する。

教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育科目は初年時から開講し、基礎的な汎用技能を修得した上で、農学分野での専門課程における応用・発展的な学習に繋げる。

専門教育科目においても言語・情報・科学リテラシーに関して、農学分野での応用、発展が可能な知識と専門技術の修得を図る。

基礎化学を体系的に学習し、これらを理解し応用する能力の育成を目指すため、1年次に専門基礎3科目、専門科目4科目を必修科目、2年前期に専門科目6科目を必修科目として配置する。また、農学分野の基礎的な知識・技術を体系的に学習するために、農学基礎科目を1年次から2年次に選択必修科目として配置する。さらに、実験を通じて専門的知識・技術を修得するために、必修の実験科目を2年次後学期から3年次前学期に連続的に配置する。

(2) 課題発見・解決能力

教養教育において、さまざまな課題を探求し、少人数クラスでの検討を通じて解決の道を探るための授業科目を、初年次の必修として配置する (大学入門科目 I)。また、現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけさせるための科目を、選択として配置する (基本教養科目)。

生物機能や生物資源を中心とする生命化学を体系的に学習し、これらを理解し応用する能力の育成を目指すために必要な基礎から応用に至る化学的な教養及び実践的な研究能力を身に付けることを目標として、基礎からより専門性の高い科目を年次進行で配置したカリキュラムを実施する。

修得した知識、技能を活用し、直面する諸問題を正確に解析する能力と自発的に方策を立て問題解決を図る実践応用能力を養うために、4年次に卒業研究を含む専門2科目を必修科目として配置し、演習を選択科目として配置する。

(3) 個人と社会の持続的発展を支える力

教養教育において、他者を理解し共生する力や高い倫理観・社会的責任感に関する授業科目を

選択必修として幅広く履修できるように配慮する（基本教養科目，インターフェース科目）。

様々な問題に積極的に関心を持ち調査する能力や，自主的・自立的に学習する習慣を身に付けるために，専門科目としてインターンシップ科目（選択）を配置する。

専門的な研究環境を長期間経験する目的から3年次後学期に研究室分属を行い，午後の時間は専門外書講読，引き継ぎ実験を行い，研究チームの一員としての協調性，倫理感と豊かな人間性を養う。

（別紙）生命機能科学科における教育目標を達成するための授業科目の流れ（カリキュラムマップ）

2. 教育の実施体制

（1）授業科目の教育内容ごとに，その分野の授業を行うのに適した専門性を有する教員が講義・演習・実験実習等を担当するように担当教員を配置する。

（2）各授業科目に主担当教員を置き，複数の担当教員により実施する授業の一貫性を担保するなど，授業科目を統括する。

（3）学部に教育担当副学部長（教育委員長）を，各学科に教育委員を置き，教育内容および実施の整合性・統合性を図る。

3. 教育・指導の方法

（1）講義による知識の学習と，演習や実験実習による実証的学習や体験学習とをバランスよく組み合わせて学習成果を高める。

（2）全ての学生にチューター（指導教員）を配置し，GPAを利用した，きめ細かな履修指導や学習支援を行う。

（3）各教員は，全ての授業科目について学生による授業評価を実施し，その結果を踏まえて授業改善報告書を作成する。また，教育方法の改善のためのFDを推進し，各教員はFD活動に積極的に参加する。

（4）各教員は実習科目や演習科目において，可能な限りTAを採用し，学部教育の改善を図り，各学期末にはTA報告書を作成する。

（5）各学科・コースは大学入門科目やインターンシップなどの授業科目において，可能な限りキャリア教育の充実を図る。

（6）各学科・コースはeラーニングやLMSなどの新しい教育方法を積極的に導入して，教育方法の改善を図る。

4. 成績の評価

（1）各授業科目の学習内容，到達目標，成績評価の方法・基準をオンラインシラバスにより学生に周知し，それに則した厳格な成績評価を行う。

（2）各学科・コースは定められた基準によって学修到達度を評価し，コース分属や分野分属，卒業研究履修認定を行う。

表 応用生物科学科における教育目標を達成するための授業科目の流れ(カリキュラムマップ)

教育目標	授 業 科 目 名								
	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	
1	(1)	基本教養科目							
	(2)	基本教養科目							
	(3)	情報基礎概論, 演習	英語 A	英語 B	英語 C	英語 D	科学英		
		初修外国語	初修外国語	初修外国語	初修外国語				
2	(1)	大学入門科				科学英	生物情報処理演		
	(2)	作物生産	動物資源開発学	土壌学	食料流通経済学			卒業研究	
		生物	化学	生物化	生物学実	応用生物学実験			
				フィールド科学基礎実習I					
3	(1)	大学入門科					生物情報処理演	卒業研究	
	(2)		植物生理学	植物育種	植物工	観賞園芸学	熱帯有用植物		
	(3)		遺伝	線虫学	動物繁殖生理	植物分子遺伝			

表 生物環境科学科(生物環境保全学コース)における教育目標を達成するための授業科目の流れ(カリキュラムマップ)

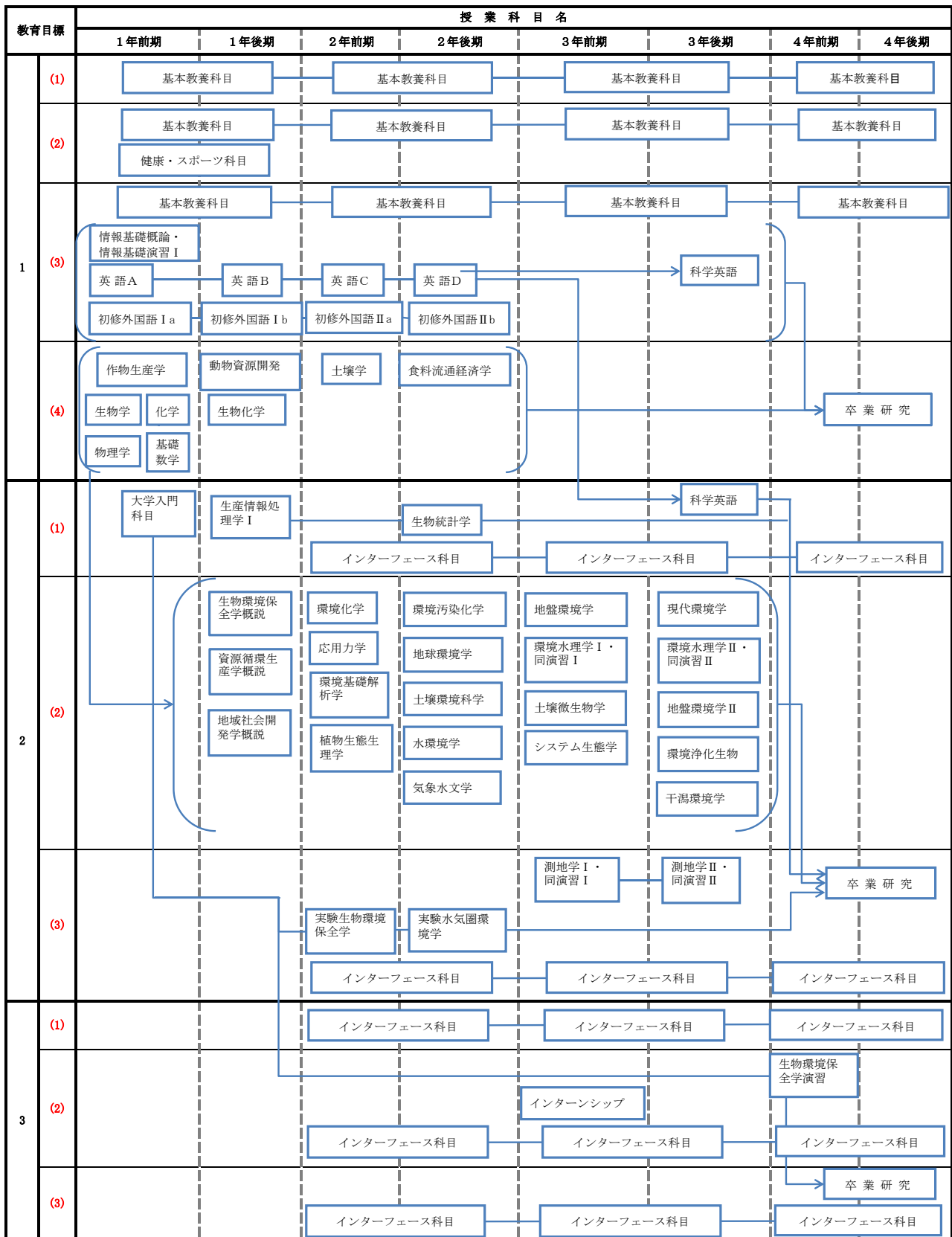


表 生物環境科学科(資源循環生産学コース)における教育目標を達成するための授業科目の流れ(カリキュラムマップ)

教育目標	授業科目名								
	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	
1	(1)	基本教養科目	基本教養科目	基本教養科目	基本教養科目	基本教養科目	基本教養科目	基本教養科目	
	(2)	基本教養科目 健康・スポーツ科目	基本教養科目	基本教養科目	基本教養科目	基本教養科目	基本教養科目	基本教養科目	
	(3)	基本教養科目 英語A 初修外国語 Ia 情報基礎概論 情報基礎演習 I	英語B 初修外国語 Ib	英語C 初修外国語 IIa	英語D 初修外国語 IIb	基本教養科目	科学英語	基本教養科目	基本教養科目
	(4)	作物生産学 生物学 化学 物理学 基礎数学	動物資源開発学 生物化学	土壌学	食料流通経済学 遺伝学 有機化学 植物工学	生物物理化学 微生物学 植物分子遺伝学 生化学	物理化学 植物生理学 分子生物学	生物有機化学	卒業研究 遺伝子工学 分子細胞生物学
2	(1)	大学入門科目	生産情報処理学 I	生産情報処理学 II	地球環境科学 環境保全型農業論 環境汚染科学	環境基礎解析学	科学英語 生物統計学 分析化学	インターフェース科目	
	(2)	生物環境 保全学概説 資源循環 生産学概説 地域社会 開発学概説	栽培環境制御学 エネルギー利用学 植物遺伝資源学 植物生態生理学	農業生産機械学 農産食品流通貯蔵学 応用動物昆虫学 経営資源管理学 栄養化学	農業資源物質工学 土壌微生物学 動物生産管理学 設計・製図学 生産エンジニアリング 雑草学 飼料資源学 植物病理学 I 食料流通貯蔵学 環境水理学 I 動物生態生理学 応用微生物学 応用力学 植物育種学 動物遺伝育種学	食用作物学 生産情報管理学 CAD利用学 環境浄化生物学 食品化学 植物病原学 農業政策論 蔬菜園芸学 果樹園芸学 生物資源化学 農産物利用学 食品衛生学	卒業研究	インターフェース科目	
	(3)		生物科学実験実習 フィールド科学 基礎実習 I	環境科学演習 フィールド科学 基礎実習 II	作物学実験実習 I 園芸工学実験実習 I 資源循環生物学 実験実習 I 資源循環フィールド科学 実習 I フィールド科学総合実習 動物資源開発学実験 I	作物学実験実習 II 園芸工学実験実習 II 資源循環生物学 実験実習 II 資源循環フィールド科学 実習 II 動物資源開発学実験 II	卒業研究 作物学演習 I 園芸工学演習 I 資源循環生物学 演習 I 資源循環フィールド 科学演習 I	卒業研究 作物学演習 II 園芸工学演習 II 資源循環生物学 演習 II 資源循環フィールド 科学演習 II	インターフェース科目
3	(1)		インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	
	(2)			インターンシップ	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	
	(3)			インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	卒業研究 インターフェース科目	卒業研究 インターフェース科目	

表 生物環境科学科(地域社会開発学コース)における教育目標を達成するための授業科目の流れ(カリキュラムマップ)

教育目標	授 業 科 目 名							
	1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期	3 年前期	3 年後期	4 年前期	4 年後期
1	(1)	基本教養科目	基本教養科目	基本教養科目	基本教養科目	基本教養科目	基本教養科目	基本教養科目
	(2)	基本教養科目 健康・スポーツ科学・スポーツ実習	基本教養科目	基本教養科目	基本教養科目	基本教養科目	基本教養科目	基本教養科目
	(3)	基本教養科目 情報基礎概論・情報基礎 英語A 初修外国語 I a	英語B 初修外国語	英語C 初修外国語 II a	英語D 初修外国語 II b	科学英語	科学英語	基本教養科目
	(4)	作物生産学 生物学 物理学	動物資源開発学 生物化学 化学 基礎数学	土壌学	食料流通経済			卒業研究
2	(1)	大学入門科目 I	生産情報処理学 I	生物統計学	社会統計学	科学英語	インターフェース科目	インターフェース科目
	(2)	生物環境保 資源循環生産学概説 地域社会開	地域資源論 人類生態学 地域ビジネス開発論 農業政策論 国際環境農業論	観光人類学 環境地理学 人間生物学 環境社会学 経営資源管理学	国際地域開発論 生態人類学 食料市場論 アジア開発教育論 農業会計学 アジア・フィールドワーク	NPO・NGO論 農村開発学 地域社会論 アジア比較農業 国際農村保健学 半島・島嶼産業 熱帯有用作物学	インターフェース科目	インターフェース科目
	(3)	大学入門科目 I		フィールド科学 フィールドワーク基礎演習	各教育研究分野	各教育研究分野演習 II	卒業研究	卒業研究
3	(1)		インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目
	(2)		インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目
	(3)		インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	卒業研究	卒業研究

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ(生命機能科学科)

教育目標	授業科目名								
	1年・前期	1年・後期	2年・前期	2年・後期	3年・前期	3年・後期	4年・前期	4年・後期	
1	(1)	基本教養科目, インターフェース科目							
	(2)	基本教養科目, インターフェース科目							
	(3)	情報基礎概論 情報基礎演習			化学実験Ⅰ 化学実験Ⅱ	微生物学実験 生化学実験		生物学基礎実験 演習	卒業研究
		初修外国語Ia 英語A 科学英語	初修外国語Ib 英語B	初修外国語Iia 英語C	初修外国語Iib 英語D				専門外書講読
2	(1)	基本教養科目, インターフェース科目							
	(2)	作物生産学 数学 物理学 化学 生物学	動物資源開発学 物理化学 有機化学 分析化学 生物化学	土壌学	食糧流通経済学				
	(3)	作物生産学 数学 物理学 化学 生物学	動物資源開発学 物理化学 有機化学 分析化学 生物化学	土壌学	食糧流通経済学	食品衛生学 栄養化学 食品化学 分子生物学	化学実験Ⅰ 化学実験Ⅱ	微生物学実験 生化学実験	
	(4)	作物生産学 数学 物理学 化学 生物学	動物資源開発学 物理化学 有機化学 分析化学 生物化学	土壌学	食糧流通経済学	食品衛生学 栄養化学 食品化学 分子生物学	化学実験Ⅰ 化学実験Ⅱ	微生物学実験 生化学実験	
3	(1)	基本教養科目, インターフェース科目							
	(2)	大学入門科目			食品衛生学 栄養化学 食品化学 分子生物学	食糧安全学 食品工学 食品機能化学 応用微生物学 海洋生物資源化学 食糧流通貯蔵学	農産物利用学 生物資源化学 遺伝子工学 分子細胞生物学 基礎放射線科学	生物学基礎実験 演習	卒業研究
	(3)	大学入門科目			化学実験Ⅰ 化学実験Ⅱ	微生物学実験 生化学実験		生物学基礎実験 演習	卒業研究
3	(1)	基本教養科目, インターフェース科目							
	(2)	基本教養科目, インターフェース科目							
	(3)					インターンシップⅠ		演習	卒業研究
	(3)						専門外書講読	演習	卒業研究

【佐賀大学農学部 入学者受け入れの方針】

今、私たちが生きる21世紀は、大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から循環型社会への転換が求められています。このような時代背景のなか、日本有数の食料生産基地である佐賀平野に立地する佐賀大学農学部は、農学という学問が、理系から文系にわたり、基礎から応用に及ぶ総合科学であることを踏まえ、「食料」、「生命」、「環境」、「情報」、「エネルギー」、「地域社会」をキーワードとした多様で重要な課題を解決していこうとしています。そのために、創造性豊かな専門職業人を育て、国内はもとより、アジアをはじめとする世界に貢献します。これらのことから、農学部は、個性とバイタリティーにあふれ、基礎学力を有する人を歓迎します。

1. 求める学生像

○応用生物科学科

1. 多様な動植物の生理生態的特性の解明、バイオテクノロジーを用いた有用生物資源の開発・利用、有用動植物を加害する病害虫の制御等についての理解と関心がある人
2. 問題解決に向けて、粘り強く自己研鑽に努める熱意と実行力がある人
3. 本学科で学んだことを活かして社会で活躍したいという目的意識と向上心がある人

○生物環境科学科

1. 自然環境、社会環境及び生物生産環境の保全と修復に興味を持つ人
2. 持続的な農業を可能にする新たな生物生産システム及び経済社会システムの創造に意欲がある人
3. 本学科で学んだことを活かして社会で活躍したいという目的意識と向上心がある人

○生命機能科学科

1. 生体における遺伝子の発現や物質代謝とそれらの調節機構を分子レベルで理解するライフサイエンス、食品の生体調節機能、栄養機能や安全性等に興味を持っている人
2. 将来、本学科で学んだ知識や技術を社会で活かそうと考えている人

2. 入学者選抜の基本方針

農学部が求める学生像にふさわしい学生を選抜するために、一般入試、推薦入試、帰国子女特別入試、私費外国人留学生入試及び3年次編入学試験の多様な入学試験を実施します。

<一般入試>

高等学校等での学習の達成度を評価するために、大学入試センター試験及び個別試験を課します。大学入試センター試験では、5教科7科目を課し、数学及び理科の学力を重視します。個別学力検査では、前期日程で数学及び英語、後期日程で数学の学力試験を課し、入学後に必要な基礎学力を測ります。

<推薦入試>

第一次選考及び第二次選考により、合格者を決定します。第一次選考では、書類審査（調査書、推薦書、作文等）を行い、高校における学習状況等を評価します。第一次選考の合格者について第二次選考を行います。第二次選考では、小論文を課し、論理的思考力、表現力及び記述力を評価し、面接（口頭試問を含む）により、入学後に必要な基礎学力と勉学意欲を測ります。

<帰国子女特別入試>

第一次選考及び第二次選考により、合格者を決定します。第一次選考では、書類審査（成績証明書等）により、これまでの学習状況等を評価します。第二次選考では、第一次選考合格者に対し、小論文を課し、論理的思考力、表現力及び記述力を評価し、面接（口頭試問を含む）により、入学後に必要な基礎学力と勉学意欲を測ります。

<私費外国人留学生入試>

独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の成績、TOEFL の成績及び面接により、志望学科の学業に対する熱意と適性を測ります。

<3年次編入学試験>

試験科目として、英語、口頭試問及び面接を課し、編入学後に必要な学力と勉学意欲を測ります。

3. 高等学校段階で修得すべき内容・水準

農学は、農業生産を中心として、医・薬・理・工・経・文など衣食住に関わる多様な分野ならびに自然環境に至るまでの幅広い分野を有する総合科学です。本学部の学生は、一般入試・特別入試（推薦、帰国子女）・編入学という異なる方式で入学していますが、いずれの入学方式においても、各試験科目については高校卒業程度（編入学は短大・高専卒業程度）の理解水準が必要です。

また、佐賀大学農学部の3つの学科では、それぞれの学科の教育内容に応じて次のような知識と学力を持つ学生を求めています。

○応用生物科学科

理科（生物Ⅰ・化学Ⅰ）、英語（英語Ⅰ・英語Ⅱ）、数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ）についての高等学校レベルの知識を修得しているとともに関連した問題を解く能力を持つ人

○生物環境科学科

理系から文系に及ぶ広範な専門領域を学ぶことから、国語・英語・数学の素養に加えて、高等学校レベルの理科及び社会の幅広い知識を修得している人

○生命機能科学科

化学的手法が多用されることから，化学はもとより，生物，物理，数学等の理系科目に興味を持ち，英語，国語，社会等の基礎学力を修得している人